【授業科目】輸血・移植検査学　Blood Transfusion and Transplantation

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉浦 諭	２年次 前　期	必 修	2	30	講　義	なし	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／輸血や移植は重大な副反応を引き起こす可能性があるため、輸血・移植検査学は重要な科目として位置づけられている。免疫の仕組みを理解した上で、輸血療法の目的や輸血用血液製剤の種類と特性、輸血の適応と製剤の選択、自己血輸血、各種血液型とその検査、不規則抗体検査、交差適合試験などの意義と理論についても教授する。また、輸血検査に関連する疾患や輸血副反応、HLA検査、血小板抗原、顆粒球抗原について知識、さらには成分採血、移植関する内容など、輸血・移植検査学に関する幅広い知識についても講義する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／実施した小テスト結果に基づき解説することによりﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを行う。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　輸血・移植の目的と意義を理解し、説明することができる。 ②　各種血液型の特徴について理解し、説明することができる。 ③　輸血・移植検査の基本原理と方法を論理的に理解し、説明することができる。 ④　輸血・移植による副作用の機序とその予防法を理解し、説明することができる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	免疫学、免疫検査学を基礎とするので、理解した上で授業に臨むことが望ましい。事前に、計画されている該当部分の教科書を一読し、また前回講義の内容についての復習も行ってから授業に臨むこと(予習・復習で各120分) ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　輸血療法とは・輸血用血液製剤の種類と特性 第 2 回　輸血の適応と製剤の選択・自己血輸血 第 3 回　輸血前に必要な検査 第 4 回　血液型総論・ＡＢＯ血液型 第 5 回　Ｒｈ血液型 第 6 回　その他の血液型① 第 7 回　その他の血液型② 第 8 回　抗赤血球抗体検査① 第 9 回　抗赤血球抗体検査② 第 10 回　抗赤血球抗体検査③ 第 11 回　交差適合試験・自動分析装置・精度管理 第 12 回　自己免疫性溶血性貧血と自己抗体 母児間血液型不適合と胎児・新生児溶血性疾患 第 13 回　輸血副反応 第 14 回　HLA検査・血小板抗原・顆粒球抗原 第 15 回　成分採血・移植 全て 杉浦
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 小テスト 20%、学期末試験 80%
教科書	『最新臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 第2版』　医歯薬出版 ※1年次「免疫学」「免疫検査学」で使用したもの 参考書等：なし
学生への メッセージ	近年、輸血と移植の安全性や副反応に対して大きな関心が寄せられている。本科目の重要性を理解し、将来、輸血・移植検査業務に携わる臨床検査技師として医療現場で必要とされる十分な知識を修得するために、積極的に講義に臨んでほしい。